

## 第8回PI外環沿線協議会 傍聴者アンケート

(出されたアンケートをそのまま事務局でワープロ化したもので、加筆修正は行っていません。よって文章が繋がらないところや、判読不明な文字のところも有ります。)

1. 本日のPI外環沿線協議会に関するご意見・ご感想
2. 外環についての日頃のお考え、思っていること
3. その他、協議員や事務局などに伝えたいこと

『世田谷区喜多見在住、30代、男性』

1について

- ・江崎さんの通過交通についての指摘について、もっとキチンと、説明をしていただきたい。都や国の説明ではよくわからない。先日の新聞にも出ていた、行政の広告で見る「通過交通論」は、理解に苦しむ。一方通行や道路の工夫で、もっと通過交通による事故は減らせる筈だし、外環道促進の理由には到底ならないだろう。税金の無駄使いで愚劣である。

2について

- ・世田谷喜多見に住んで10年。(拙宅は外環道に至近とは言えないが)当時の不動産業者複数社に尋ねても「こんなに家が多くなっちゃ、まず外環道なんて、100年かかっても出来ませんよ!」という話。それは、単に「売らんかな」というための虚言というよりも、世間的な知恵のある人々の常識という気がいたしました。喜多見は、自然に溢れ、人口が増えてきても、素晴らしい環境の土地だと感じる事が日々あります。このような土地に「巨大な外環道高架」(又は、開削された部分)また多くの側道が出来るとは“現在の常識”でも到底まともな考えとは、思えません。本当に造るんでしょうか?私は「首都機能移転を阻止したい、石原都政の『苦肉のパフォーマンス』という気がします。が・・・。(石原さんも大変ですねと。)地方に住む首都機能移転を促進する立場の人からはそんな声も聞きました。現在の一般市民が持つ環境問題についての感覚からすれば、巨大な外環道を今さら作れる筈がないと強く感じる今日この頃である。(都や国の担当者も本当はそう思っているのではないですか!?)

『世田谷区在住、40代、男性』

1について

- ・やっとスタートラインに立ったという感じでしょうか。今日の議論を充実すべきと考えます。
- ・行政は少々「住民をあとでしていませんか?」または、「PIの主旨を忘れていませんか?」開示情報の精査、進行のしかた等時間をかけた方が良いでしょう。

3について

- ・ファシリテーショングラフィックの手法をとり入れてはどうでしょう。同じ意見のくり返しを回避できます。誰がやるかは大変な問題ですが・・・。

『市川市真間在住、50代、男性』

1について

- ・江崎委員の出した通過交通評価への疑問、現状道路整備上よって平行道路の交通量、放射方向道路の交通量が増加しているという指摘に対する答えのないまま、外環の必要性を強調する資料がくり返し、提出されている。協議のやり方は納得できない。

2について

- ・高速道路はあくまで利便性の追求に基づくもので、これが交通緩和となるとする議論は外環の一面のみを強調したものでバランスを欠いている。「交通緩和」という面に限定すれば費用対効果という面で他の施策に比べて劣ることは明白である。

3について

- ・幾つかの立場の違う資料が提出された場合には、それらを対比した議論が必要で、座長がそうした方向で調整すべきである。

『東村山市廻田町在住、50代、男性』

1について

・「相談所」へ行けば、外環のルート図は閲覧できますか？

2について

・首都圏の3環状は必要です。交通渋滞による交通事故発生減や、物流の円滑な流れの実現は経済的にも大いにメリットをもたらす。3環状の1つである外環は早期に完成させるべき。

3について

・傍聴者への配付資料が第8回からカラー版となった事はありがたい。色別で判りやすくなりました。

『武蔵野吉祥寺在住、60代、女性』

1について

・「PI」で外環道路問題を話し合うというその「PI」そのもののご理解に、協議会メンバーの間に差があるように思います。(ご理解のない方がいらっしゃる！)

2について

・「住民の合意があれば、外環の計画中止もありうる」という確認事項を歓迎している住民の一人です。

『武蔵野市吉祥寺在住、40代、女性』

1について

・初めて傍聴させていただきましたが、PIの核心をつく論議(P18資料に関心して)がうかがえて有意義でした。

・正直申し上げて、本当にこうしたPI論議が住民の声を反映させる上で有効だろうか、と心配していました。やはり“白紙”“原点”に戻っての論議のむづかしさでしょうか。“まず外環ありき”の展開はPIに反するというのもっとものことと思います。

2について

・外環道路、建設は反対です。今でさえこんなに汚染されている東京の空気。外環ができたから良くなるとはどうしても思えません。むしろ車の量はふえることでしょう。本日も説明のあった資料、建設側の理論は、害はみんなで分けあおう＝「悪平等」と押しつけられているようで納得がいきません。

3について

・皆様お忙しい中熱心に討議されていることに一住民として感謝申し上げます。とくにそれぞれの地域住民を代表してご参加されていらっしゃる協議員の皆さんの発言をうかがい、大変良い勉強になりました。

『江東区亀戸在住、20代、男性』

1について

・インターネットでこれまでの議事録をすべて見ましたが、同じ人が発言している事が多い。(反対派)積極的賛成派の意見をもっと聞きたい気がする。役所も含めて。(反対派の“ガス抜き”でしょうか?)

2について

・外環とは関係のない所に住んでいるし、車は使わないので反対される方がいる以上、いらない気がする。ムダな税金は使わなくていいでしょう。

3について

・武田協議員発議の「原点論」の議論は絶対に必要だと思う。S41年の資料も明らかにすればいい。  
・横浜PI(恩元線)の時はケーブルTVでPR番組をつくりました。外環PIは都全体、また今後の公共事業のあり方をめぐっても大きく注目されているので、TVやインターネットで会議(協議会)の様子を中継すべきではないでしょうか?あるいは記録として映像を残しておけませんか?今後のPIのために。

『江東区亀戸在住、30代、女性』

1について

・MXテレビ(UHF)やケーブルテレビ、コミュニティFM、インターネット等で生中継すべきである。(公共事業は全国民のものです!!!)

・協議会に賛成派、反対派の学識研究者や企業の担当者、環境局(国・都・区ほか)職員、もう少し若い年代層の市民も入れるべきである。

- ・綿密なマーケティングおよび採算性(市民の声)を大前提として議論すべき、協議会の理念には共感する。が人選(国・都・地方自治体)があいまい。

## 2 について

- ・防災上のメリットデメリットは? 学識者は?
- ・そもそもどこから外環の話(昭41)が出たのか? 過去の資料は全て出してほしい(行政) 当時の担当者は今“生きて”いるのかも不明。“ゼロ”から議論すべき。
- ・“立ちのき”にいくらかかるのか、概算して欲しい。少子高齢化や経済の低滞による交通量減を考えると、道路予算はバリアフリーやLRT(路面電車)、TAXIの低料金化や自動車道の整備にあてた方がよい。(外環は不要) 経済的にやめた方がいい。借金を背負うのは若者。

## 3 について

- ・議論が水かけ論になっている。コンペではないが自論を事前にレジュメにまとめた方にのみ発言の機会を与える(官民間問わず)。今日初参加であっても具体的なマーケティング調査や米津さんのような意見書をまとめてきた人に発言してもらった方がより開かれた発展的な議論ができる。
- ・資料の作成経緯(行官政側)があいまい。業者が作ったと思われるかのような資料4-18の存在には自分も反対である。関係者代表も個人名を公表し発言しているのだから、行政側の資料にも作成者名を責任もって明記すべきである。(提案企業名も)
- ・江崎さんの資料データの数値の出所もあいまい。大学論文レベルに明示してほしい。
- ・試みとしてはすばらしいことなので、是非継続(理念)してほしいです。市民主体の公共事業を!!! (本当に必要なのか?)
- ・1~2名にマイク向けてもいいのでは? 発言したいですよ。へるもんじゃない。客観的にみてるか、正しいこともみえますよ。

『世田谷区粕谷在住、60代、女性』

## 1 について

- ・日本初の試みというこのPIをぜひ成功させたいため、あえて苦言を一つ、二つ……。一部の過激な協議員の発言からは、この会議を進展させようという意志が見受けられず、外環道の開発を阻止したいとの感情論に聞こえるが、協議員の人選はどのようにされたのか。これでは事務局側が何をどう説明しても、またどのような資料をどんな形で提示しても今夜と同じ状態が繰り返されるのではないか。

## 2 について

- ・絶え間なく続く騒音、振動、高濃度に汚染された大気、環八沿道に暮らす住民としての本音を言えば、外環道は一筋の光明。息を潜め、祈るような思いで開通を待ち望んでいるのだが……。
- ・都市機能も左右する幹線道路の役割と公共性、そこに発生する弊害の数々、双方をコントロールしながらうまく人間社会に融和させているのが道路行政だと考え、それには先ず敷設されるまでの課程を知らなければと、この会議を傍聴している。

## 3 について

- ・PIに不慣れなのは協議員も事務局も同じだと思うが、行政の対応が協議会というよりも説明会になってはいまいか。
- ・一つの提案として、協議員の中から例えば女性を司会者に起用してはどうだろうか、さすれば頭から行政不信とわかる発言が和らぎ、真のPI協議会になるのではないか。それをぜひとも傍聴したいものである。